

## 校長研修だより125

### “偶然”と出会う機会

2023・10・30 重枝 一郎

社会が大きな変化を迎えている中、私たち教師に求められる力も変わってきていると言われる。私たち教師は、次世代を切りひらく人材を育成する重大な役割を担っている。2021年に中教審が発表した資料「教師に求められる資質能力の再整理」において4項目が挙げられている。

- ① 使命感や責任感, 教育的愛情, 教科や教職に関する専門的な知識, 実践的指導力, 総合的人間力, コミュニケーション能力, ファシリテーション能力
- ② 情報活用能力, データリテラシーの向上
- ③ 変化を前向きに受け止め, 求められる知識・技能を意識し, 継続的に新しい知識・技能を学び続けていくこと
- ④ 多様な知識・経験を持つ人材との連携の強化

私は、この4つのうちの③「変化に対応して学び続ける力」が極めて重要なポイントだと思う。

変化が激しく予測不可能なこれからの時代には、誰も先のことはわからない。一方で、自ら知ろうと思えばいろいろな情報に手軽にアクセスできる。YouTubeなどの動画で専門的なことを学ぶことも可能である。生徒と一緒に新しい課題に取り組み、一緒に学ぶことが大切になる。それこそが、「主体性」「協働性」につながる。

私は本年度、様々な機会で「人生は“たし算”」という話をしている。この“たし算”は、「受け入れる力」であり、「柔軟性」であり、「学び続ける力」であると考えている。“たし算”をするマインドは、ただ素直に受け入れるという受け身の姿勢を言っているのではない。好奇心をもって掘みに行く学びである。先生方はお互い何かを掘み合っているかがポイントになる。

この“たし算”についてもう少し言うと、「無理だ」「うまくいかない」と感じることは往々にして“たし算”しようとしなないことが多い。その理由はたいてい「恐れ」がある。失敗や傷つくことを回避している。だから「まあ失敗しないだろう」と予想できることは“たし算”する。でもそれは、あらかじめクチコミや評価を検索して確実においしい店を選ぶみたいなことで必然性の世界である。

このクセがつくと、日常の中で、どんどん「偶然」に出会う隙はなくなっていく。私は、生徒や先生方に「偶然」と出会う機会を逃さないでほしいと思っている。案外たまたま通りすぎたところに「まだ知らない店(自分)」がある感覚である。共鳴するような何かと出会うと、「新しい感情」を手に入れることができるからである。この「偶然」を求める感覚は、「学び続ける力」につながると思う。

高2の修学旅行は、まさに「たし算」「偶然と出会う機会」

行ってらっしゃい!